

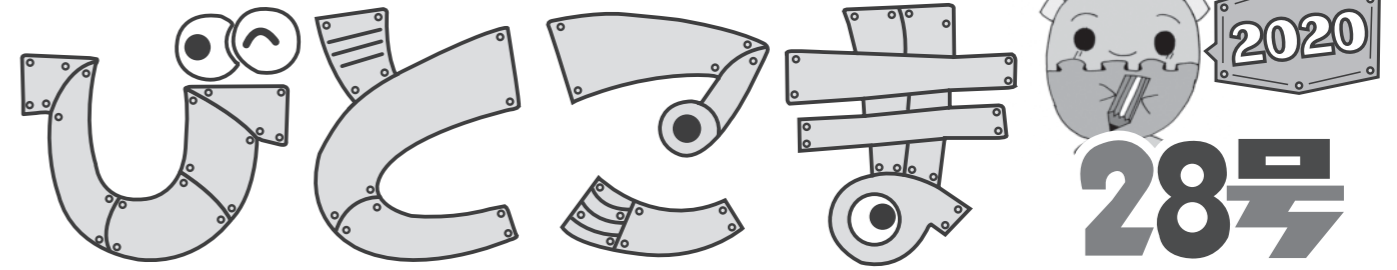
Melbourne りんぱり

ここにきて、2年目くらいに手芸用品屋さんで買ったミシン糸。少しムラサキがかったシヨッキンピンクで、キラキラ光る糸で、よく見ると「Made in Japan」つまり日本製、とかいてある。でもドイツのブランド。ドイツの会社が日本で作ってオーストラリアの店で私に買われた糸。長い長い旅をして、私のところへ来たんだなあ…。
おごちんは…元気なんだけど…コロナ対策でお出かけも買物もきびしいルールがあるので、食べ物や茶を買いに行くとき以外は、家族全員で、ずっと家にいます。で、ツマンナイなあ…って思う時、これを見て世界のことも考えるんだ。



オーストラリア生活ももう少し4年となる『びとこま』元編集長おごちんが、ロックダウン中のメルボルンからお届けします。
みなさん、無事で元気に過ごしてる？
おごちんは…元気なんだけど…コロナ対策でお出かけも買物もきびしいルールがあるので、食べ物や茶を買いに行くとき以外は、家族全員で、ずっと家にいます。で、ツマンナイなあ…って思う時、これを見て世界のことも考えるんだ。

苫小牧市美術博物館の魅力を伝える



とくへつてん せいだん ねん 特別展 生誕100年

ロボットと芸術

えつ きやう 越境する じゆまノイド



ねん かつ にち と かつ にち にち 2020年7月18日(土)~9月13日(日)

「ロボット」の名は戯曲の中から

「ロボット」の名が世にでたのは1920年、とある戯曲の中である。筆者は新しい何かを求めたのだから。「ロボット」の名が無かっただけであり、百年以上も前からロボットのようなものは考えられていたし、かのレオナルド・ダ・ヴィンチもロボットに似るものを考えていた。原作は文で、実体化された時はげきであったので、日本に上陸したときも、文やげきで伝わった。
(原田詢矢)

音にはんのう いろいろなしゆるい

ロボットにはいろいろなしゆるいがあります。その中で私がとくにおどろいた事は、手をたたくと、その音にはんのうして、小鳥がなくなっている所がびっくりしました。
(板谷果穂)

じんぞうにんげん 人造人間としてのロボット

日本で一番最初にロボットをつくったのは、北海道の生物学者の西村真琴という人だ。最初は仕事をさせるためにつくられたロボットだが、この人は人造人間としてロボットをつくった。
(阿部多香子)

編集後記

今年度最初の発行になりますびとこま 28号はコロナ禍の中、在宅で課題に取り組んだたくさんの方のイラストやフェイスシールドを被りながらの取材活動など、いつもと違う活動の中でも子ども記者たちは簡単に困難を飛び越えて、楽しんでる様子が紙面からあふれています。
少し前までは書けなかった文章がいつの間にか長く情景豊かな記事を書けるようになっていたり、対象をよく観察してイラストを描き上げていたり、27号との読み比べをしてみるとその成長には驚くばかりです。今号もぜひじっくり読んで、子ども記者たちの活躍をお楽しみください。

びとこま

第28号(2020年9月発行)

- 【執筆】 子ども広報部「びとこま」(阿部多香子、板谷果穂、小川さくら、栗本帆夏、栗本百花、田野紗彩、野本遥、原田詢矢、三浦百葉、分里心音、綿貫里咲) NPO法人樽前artyプラス
- 【イラスト】 子ども広報部「びとこま」、堀米和克・小河けい (NPO 法人樽前 arty プラス)
- 【紙面デザイン】 堀米和克 (NPO 法人樽前 arty プラス)
- 【編集】 苫小牧市美術博物館、NPO 法人樽前 arty プラス
- 【発行】 苫小牧市美術博物館 (苫小牧市末広町3丁目9-7)

リアリスティック パーチャリティー フライング ノーパティ
 ☆ 《Realistic Vertuality(Flying Nobody)》 伊藤隆介

無人ばくげき機は人がのっていなくて、戦争中のへいきとしても使われたそうです。その作品は、おもちゃのような小さい無人ばくげき機をとんでいるように動かして、かべにうつしたえいぞうで、本物のようにみせていました。

の もとはる (野本遥)



☆ 《日々にある》 津田光太郎



撮影者/栗本帆夏

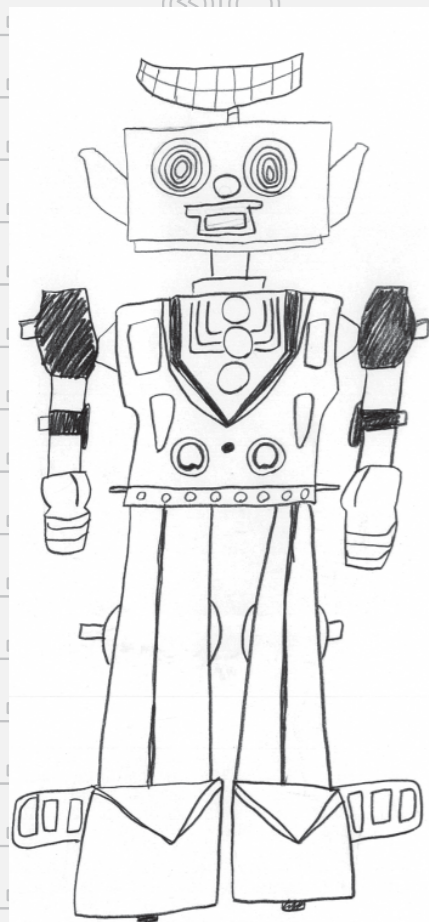
ロボットをテーマにした絵をかいている。昭和の科学雑誌と色合いが似ていて、カラフル。

わたぬきりさ (綿貫里咲)

☆ 《オレンジ》 ウアシリー・カンディンスキー

ロシア、モスクワ生まれで、近代絵画における抽象表現の先駆者の一人。1910年ごろから抽象現象の探求をはじめ。生涯を通して、自然の形態の抽象表現、幾何学的形態による理知的な抽象で、さらには有機的形態による表現へ作風を展開した。また、抽象絵画という新たな芸術表現の創始者として、その後、多くの影響を与えた。展示してあったのは、オレンジという作品だ。ウアシリー・カンディンスキーが書き、ほかの人は見てわかりやすい絵をかいていた。なので、わかりにくい絵は描かなかったそうだ。

くりもとほのか (栗本帆夏)



☆ 「ガイドロボット」 相澤次郎

イラスト：阿部多香子

☆ 《共同社会》 立石 紘一

立石こう一は、《きょうどう社会》をせいさくした。福岡県生まれ。石炭産業が隆盛していた筑豊で育つ。

くりもとほのか (栗本帆夏)



つよ たい あこが
 ◎ 強いヒーローに対する憧れ

ロボットキャラクターのきっかけをつくったのは、「鉄腕アトム」その後、「鉄人28号」「マジンガーZ」「機動戦士ガンダム」など次々ロボットが登場する作品ができた。

人々には、『強いヒーローに対する憧れ』が生まれた。(分里心音)

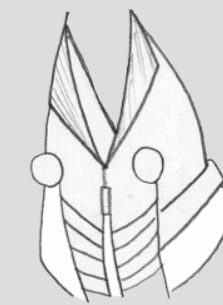


セミ人間

イラスト：分里心音

◎ ウルトラマンシリーズ

成田亨は、青森県出身で、彫刻家だったが、『ゴジラ』で映画美術をするようになった。「ウルトラQ」「ウルトラマン」「ウルトラセブン」のヒーロー、怪獣、宇宙人などのデザインをした。ウルトラマンシリーズの造形的な基をつくった人物である。ガラダマモンスター(ガラモン)はセミ人間が送りこみ、バルタン星人はセミ人間にツノ、ハサミをつけた敵である。



バルタン星人

イラスト：分里心音

☆ 《あなたは変態しつつある-D》 工藤哲巳

私がこの特別展で一番気になった作品「あなたは変態しつつある-D」の作者。この作品は、人間の頭がサイコロに入っていて、目が落ちていたり、タバコを吸っていたりしている。サイコロに入っているわけは、「サイコロも人生も、どのように進むかわからない」からだそうだ。

わたぬきりさ (綿貫里咲)

トレーシーズ オブ レッグス
 ☆ 《Traces of legs》 西尾康之

「いっしょに歩きたい」と言っているようだ。その近くを通るとその足もいっしょに歩いている。本当に歩いているように見える。カッカカッカではなくて、ゆっくりのんびり自然をかんじているように歩いている。海の近くを歩いている感じがする。

たのさあや (田野紗彩)



イラスト：野本遥

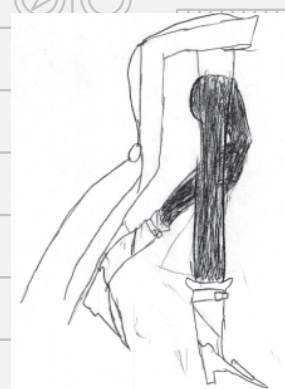
☆ 《用無し》 シューベルグ・ヨナス

エーアイ A Iとは…人工知能 (Artificial Intelligence) の頭文字をとった略称。この作品は、ロボットでまん才をする AI プログラムとロボットの組み合わせで笑えるロボットコンテスト「バカロボット 2008」に参加した世界初まん才を自動で生成するおもしろいロボットだ。まん才に合わせて、脚を動かす、振動するなどの動作をしたらしい。

くりもとほのか (栗本帆夏)

ロボットら人工物はとどまることを知らない。それゆえに問題もおおきがるがそれと同時に、人々に感動をあたえ、労働や楽しみなど、沢山のことを行ってくれる。人々は仲良く、ロボットと上手に共存すれば、世の中は進化していくだろう…。

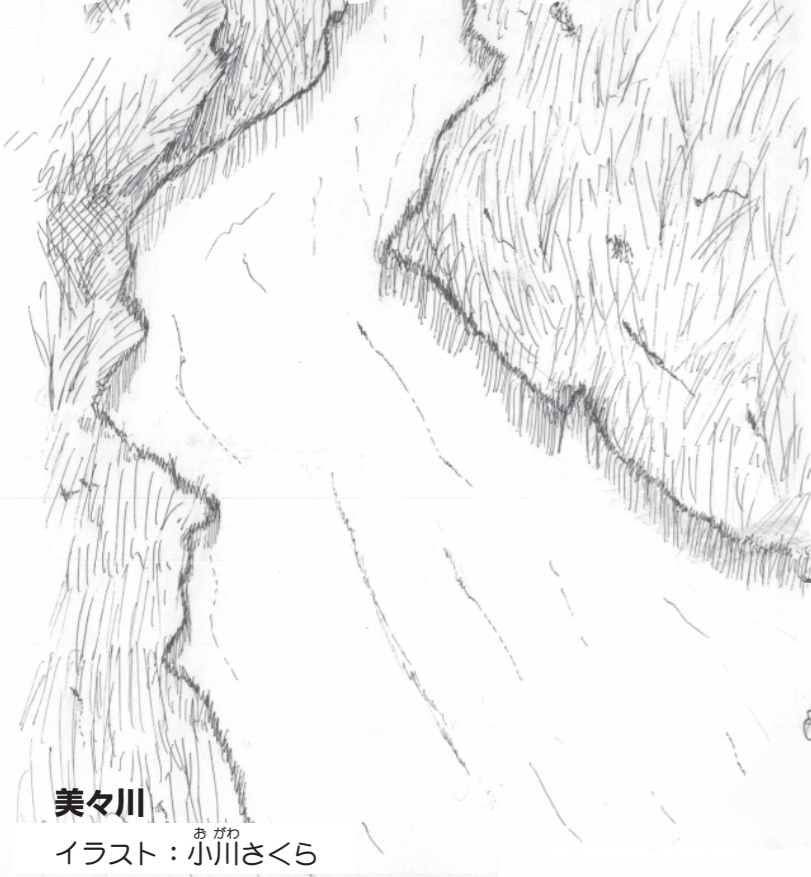
(原田詢矢)



イラスト：田野紗彩

企画展 2020年5月12日(火)～6月21日(日)

「水と生命～川と生き物のつながり」



美々川
イラスト：小川さくら



シマフクロウ
イラスト：田野紗彩



ヤマモミジの木
イラスト：三浦百葉



ニホンザリガニ
イラスト：栗本百花

ヌマガレイ (透明骨格標本)
骨のかたさによって色が分けられている。

イラスト：阿部多香子



水草(水生植物)には、「抽水植物」、「浮葉植物」、「沈水植物」、「浮遊植物」の4種類があります。「抽水植物」は、根を地面にはり、一部が水上に出る植物のことです。

「浮葉植物」は、根から茎や葉柄を伸ばし、葉が水面に展開する植物のことです。

「沈水植物」は、植物全体が水中に沈む植物のことです。

「浮遊植物」は、全体が水中あるいは水面をただよって生育する植物のことです。

水草でも、さらに細かく分類されていて、おもしろいとおもいました。

(分里心音)



オオミウマ
イラスト：小川さくら



ヒシ
イラスト：野本遥

人は水に関わり生きる～川の町、苦小牧～

～苦小牧の降水量～

苦小牧は、水資源にあふれた宝の町である。その水は、一年で1m当たり約1200L、この町の水、とまチョップ水約500mL 2400本である。その水は、苦小牧にある30以上の川のどれかに流れこみ人々の飲む飲み水になるため、浄水場へ行く。

※①m=へいぼうめーとる ※③mL=みりりつとる
※②L=りつとる

～苦小牧の川々～

先ほども少しふれたが、30以上苦小牧には川がある。中には、源流が定かではないものもある。苦小牧のとなり、白老町との境目には、別々川という川がある。この川は、アイヌ語のペツペツからとったものである。他にも川に関した地名で、「ナイ」や「ベツベツ」からきたものもある。植苗や登別、幌別などだ。このように、川にも、地名に関する部分があったことがうかがえる。

(原田 詢矢)



シマフクロウ
イラスト：阿部多香子

日本で一番大きなふくろうの名前はシマフクロウです。わたしから見ると、のぞいているようにみえます。かまれるといたそうす。よるになると、目を光らせて、羽をばさばさひるげてとぶのです。シマフクロウは魚をたべます。目の形は、丸くて、まん中に、黒い目玉があります。その黒い目玉の外側に、黄色いものがかこってあります。むかしはいましたが、今は、いません。わたしは本もので見てみたいです。羽の色は茶色と白です。体の色は、白と黒と茶色です。わたしもそのシマフクロウのように羽をひろげて空をとんでちきゅうのけしきを見てみたいです。

(田野紗彩)

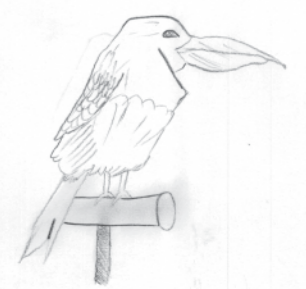
カワガラス

イラスト：栗本百花

カワガラスは、カラスのなかまではありません。そして、他の鳥類では、マネできない方法で水生こんちゅうやちぎよなどを食べています。(板谷果穂)



ヤマセミ
イラスト：綿貫里咲



アカショウビン
イラスト：田野紗彩

カワセミのなかま

北海道で子育てをしているカワセミの仲間、カワセミ、ヤマセミ、アカショウビンの3種類。どの種類も、川や湖などの水辺で生活しており、水辺に張り出した枝の先から高速で水中に飛び込み、魚やカニなどのエサをとる。アカショウビンとヤマセミは近年、川の環境が原因でほとんど苦小牧で見られなくなりました。

(綿貫里咲)



カワセミ
イラスト：分里心音

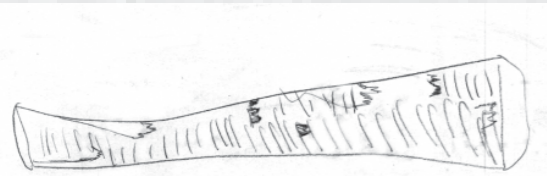
「イクパスイ—祈り捧げるもの—」

2020年5月12日(火)～6月21日(日)

イクパスイ展では、美術博物館にあるほんのいちぶの「イクパスイ」が展示されている。当時のアイヌの人たちは、イクパスイがつかれないと一人前ではないと言われていたそうで、作る時は木の向きが一番大事なのだそう。イクパスイをぎしきで使うときは、「イクパスイ」、「あわん」、「台」の3つで使うそうだ。そのぎしきは、神様に自分たちの考えを伝えるぎしきなのだそうだ。

あべたかこ
(阿部多香子)

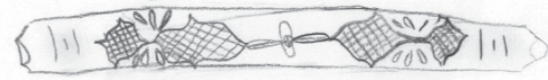
かたち つく まえ
形を作る前のイクパスイ



みうらももは
イラスト：三浦百葉



わためきりさ
イラスト：綿貫里咲



たのさあや
イラスト：田野紗彩



の もとほる
イラスト：野本遥



くりもとほのか
イラスト：栗本帆夏

イクパスイは、いろんな木をきって、イクパスイを作ります。そして、イクパスイは全て男の人がつくります。イクパスイは、ちょうどこうでもようをつくります。アイヌでは、一てきのさげがかみのせかいでは一たるになるとされています。そして、ぎれいを行うさいにアイヌ(人)のこたばをよりせいかくにカムイ(かみ)へととりつぐやくわりをもったどうぐです。

いたやかほ
(板谷果穂)

イクパスイとは、アイヌが儀礼を行うときに、アイヌ(人)の言葉をより正確にカムイ(神)へ取り次ぐやくわりをもった道具である。儀礼の際に酒をつけて神にささげる。「イク」はアイヌ語で「酒を飲む」、「パスイ」は「箸」という意味。

わためきりさ
(綿貫里咲)

アイヌが儀礼を行うさいにアイヌの人の言葉をより正確にカムイ(神)へと取り次ぐやくわりをもった道具らしい。儀礼の際に、イクパスイの先に酒をつけて神につげる。そうすると一滴の酒が神の世界では一たるにもなるとされている。また、イクパスイは、男性がつくるらしい。

くりもとほのか
(栗本帆夏)

なかにわてんじ
中庭展示 vol.14 艾沢 詳子

ウェザリング ふうか

「Weathering - 風化 -」

2020年5月12日(火)～9月13日(日)

プレイ
《Pray - 祈り -》 艾沢詳子

ひとすじの光が少しうごいています。そのうごきは、よもぎ沢しょう子さんのこきゅうのスピードだそうです。その光の中に、マフラーをなびかせているオブジェがあり、そのかげが長くのびていました。ひとすじの光の中に人々があつまっているいろんな思いをもって、いのっているようすを表しています。この作品は、くらいとこるにてんじしてました。

の もとほる
(野本遥)



撮影者
野本の
の もとほる



の もとほる
イラスト：野本遥



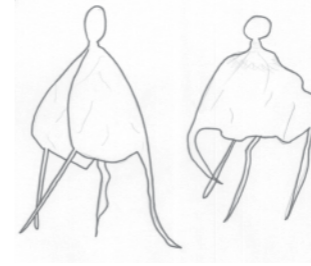
の もとほる
イラスト：野本遥



あがわ
イラスト：小川さくら



たのさあや
イラスト：田野紗彩



わけさとこね
イラスト：分里心音



あべたかこ
イラスト：阿部多香子



わためきりさ
イラスト：綿貫里咲